

イギリス海岸護岸復旧工事の現場見学会を開催！！

現在、花巻市小舟渡地区の北上川右岸では、平成23年6月の洪水により崩落した護岸の復旧工事を実施しています。

施工箇所付近の河岸は泥岩層であり、泥岩層が露出した時の風景がイギリスのドーバー海峡に面した白亜の海岸を連想させることから、日本の代表的な詩人・童話作家の宮沢賢治が「イギリス海岸」と名付けました。

この泥岩層を傷めないよう細心の注意を払いながら工事を進めておりますが、現場の締め切りに伴い普段は水面下にある泥岩層が露出することから、平成25年2月1日に現場見学会を開催しました。

当日は約200名の見学者に来ていただき、あらためてイギリス海岸の注目度の高さを実感しました。



見学会の様子



現場で確認されたアケボノゾウの足跡

施工箇所の泥岩層からはアケボノゾウの足跡が確認され、カメラで撮影しようとする見学者で行列ができていました。

確認されたアケボノゾウの足跡は全て保存するため、擁壁の位置を変更しています。また、工事用道路を施工する際は、泥岩の上に砂と鉄板を敷き、泥岩及びアケボノゾウの足跡を保護するよう対策をしています。



宮沢賢治記念館 牛崎副館長



宮沢賢治の弟、清六の孫にあたる
宮沢和樹氏
(株式会社 林風舎 代表取締役)



日本地質学会員 原子内 貢氏

見学会では、宮沢賢治やイギリス海岸に関わりの深い方々から貴重なお話を頂きました。

宮沢賢治記念館の牛崎副館長からは、宮沢賢治作品とイギリス海岸の関わりについてお話を頂きました。また、宮沢賢治の弟、清六の孫にあたる宮沢和樹氏からは、泥岩層の下に首長竜の化石があるかも・・・と兄弟が夢を膨らませていたエピソードを紹介していただきました。

アケボノゾウの足跡については、日本地質学会員の原子内貢氏から「140万年ほど前の足跡の化石と考えられ、大きさや歩幅からアケボノゾウのものとみられる」といった説明を頂きました。